



土木業



徳島新聞富田専売所 徳島市富田橋4丁目6-4 電話0120-44-6106

👉 お仕事に役立つポイント



土木工事業は、官公庁が発注する公共事業が多いという特徴があります。しかし、工事内容は以前と比べると変化しています。「経済対策」に基づく箱モノ事業から、「防災」「環境」「福祉」に関

連する先行投資型・戦略型公共事業が増えています。そのため、土木工事業も変化に対応した戦略が求められるようになってきました。県紙「徳島新聞」には、国政に加え大手新聞やテレビが報じない「広

く」「深い」地元に関連した情報が毎日載ります。この先、企業の未来を左右する「情報の塊」ということができます。

🗨️ 具体的な徳島新聞活用術

■経営戦略立案に向けた3つのポイント「収集」「計画」「人脈」

高い利益率を確保し成長する会社経営のために、5年・10年先を見通した経営戦略が欠かせません。必要なのは「政治経済」「行政」「市民」の動き(情報)です。

地元紙には、「総合計画」「実行計画」「予算」「人事」、あるいは計画につながる「審議会の進行状況」など現在の動きが詳しく載ります。現在受注している公共工事の可能性、さらに未来に発注される工事を読むことができます。情報を「収集」して分析、「計画」を立て、さらにキーパーソンとの「人脈」を作る戦略を進めれば、高い成長性と利益率につながる経営が実現します。

■経営戦略のポイントは「専門性」「高い技術力」「人材育成」

土木工事業成長の1つのポイントは、「専門性」の確立です。構造物や建物の建築に耐震性など付加価値が求められるようになってきました。特に、中小企業は「高い技術力」や専門性のアピールによって受注機会が広がります。企業理念や受注実績、さらに今後の夢を時系列につなげれば、戦略的に成長が見込める分野へシフトすることができます。また、必要となる設備投資も明確に見えてきます。

対応する技術を磨き、将来に向け若手を中心とした「人材育成」も計画的に進めることもできます。



■注目は「防災とメンテナンス」「観光と地域の拠点施設」「公共福祉とアメニティ」

道路、橋、建物など老朽化が進んでいます。「メンテナンスと防災」の両面から、補強作業や建て替え工事は必ず発生します。その前の作業として、ドローンを使った老朽化診断方法の開発も進められています。関連サービスが拡大し、同時に専門化も進んでいます。

若者の定住促進や交流人口拡大策を目的とした「拠点施設整備」も進みます。観光地のトイレ施設など、土木関連工事は必ず必要です。こうした動きは、市民活動を見ていけば読み取ることができます。地元の有力者が動けば、やがて行政を動かし事業が進むようになります。バリアフリーに対応する改修工事や、公園や防災と一体となった河川公園の「アメニティ化」も進みます。

👍
こんな活用術いかがですか？

土木工事業は、国政、県政、市(町)政と密接に関連しています。徳島新聞の記者は地元ネットワークを持ち、社会の動きを捉えて取材のポイントを探ります。「交流拠点が完成」という全国紙の記事には、深く触れられていない。「目的と次の構想」をインタビュウしています。この答えに、次の土木工事のヒントが隠れています。徳島新聞を通して、自社と行政の「次の展開」をいち早く見つけ出すことができます。



所長ひとこと

